

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171100104		
法人名	株式会社兵庫福祉保険サービス		
事業所名	グループホーム松風の郷 浦富(1F)		
所在地	鳥取県岩美郡岩美町浦富1418-2		
自己評価作成日	平成25年3月28日	評価結果市町村受理日	平成25年6月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス
所在地	鳥取市湖山町東2丁目164番地
訪問調査日	平成25年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大家族のようなアットホームな施設を目指し、日々過ごしています。
「ゆったり、一緒に、楽しく」の経営理念の基、職員と利用者の信頼関係を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることという地域密着型サービスの意義を職員が十分に理解し、日々のサービスに活かしている。
地域住民の方との交流も積極的に図り、地域の一員としての基盤を築いている。
重度化した場合や終末期のあり方について、事業所として具体的な方針を出し、職員のみならず、本人・家族とも情報を共有し、地域の関係者と共にチームで支援できる体制を築いている。
職員と管理者は、日ごろからよく話し合い、良好なコミュニケーションを図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく」という理念のもとご利用者様のペースに合わせた介護の実施を図っています。	地域密着型サービスの意義を職員みんなが共有し、法人として作られている理念を玄関に大きく掲示し日々意識づけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族や関係機関の方同席のもと、運営推進会議を実施し、施設の現状等を伝えていきます。	利用者は地元の方が多く、散歩時等でも気軽に挨拶が交わされている。 また地域の行事等にも積極的に参加するよう心がけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状出来ておりませんが、地域の方に声掛けし、サロン等の実施を検討しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見を十分吟味のうえ、サービス向上に活かすことができるよう注力しています。	定期的に運営推進会議を開催し、家族や関係機関の方からの意見をサービスの向上に活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターが推進しているケア会議に参加し、ホーム内の様子等を報告し、行政の方々と情報交換を行っています。	日頃から情報交換を密に行い、協力関係を築いている。 困ったことが起きた時は速やかに相談し、助言をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束等の排除の為の取り組みに関する研修、マニュアルの見直しを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	日中玄関の施錠は行っていない。 常に職員が利用者に目を配り、外に出たような人があれば、一緒について行くなどしている。 身体拘束禁止の対象となる具体的な行為に対しての研修を行い、徹底を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待の防止の為の取り組みに関する研修、マニュアルの見直しを行い虐待の防止に取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に成年後見制度についての研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や解約の際は、不明点等が残らないよう十分に説明及び納得して頂いた上で対応しています。帰宅された後でも、不明点等があれば連絡して頂きたい旨お伝えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見をお伺いできる体制としています。月に一度実施する社内会議で、報告及び検討・改善策等を話し合うようにしています。	ご家族の面会時には積極的に話しかけ、いつでも何でも話しやすいような雰囲気づくりに努めている。出された意見等は会議で話し合い、サービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会を行い、意見交換が出来る場を設けています。尚、日々の業務の中で、意見・提案があれば、統轄管理者に直接話す体制としています。	スタッフ会議を定期的に行い、職員の意見を聞いている。また管理者は、職員と日常的にコミュニケーションを図り、話しやすい関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金改正・正規雇用化・産休・育児休暇の整備・定年引上げ等、職場環境条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「働きながら資格を取る」取り組み、カンファレンスによる共有・推進を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老人介護ホーム代表者との交流を図り、情報提供をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人及びその家族から、困っていること又は要望等を十分聴取し、信頼を築いていける体制づくりに注力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望等を十分に聴取する中で不安を解消し、サービス計画を作成しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族との面談は、必ず職員複数名で実施することで、必要な支援等を漏れなく見極められるような体制としています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力に応じて、可能な限りお手伝いをして頂くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密に図るよう努めています。尚、月に一度、お便りを家族宛送付し、近況を報告するようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日中、施設内を開放し、関係部外者がいつでも訪れることができるようにしています。	馴染みの友人や知人がいつでも立ち寄っていただけるよう、施設内を常に開放し、交流しやすい環境を保っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活で孤立しないよう声掛けを行い、皆で楽しく過ごして頂けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、臨機応変に対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちや暮らし方を伺い、希望に沿うよう努めています。	利用者の表情や言動に常に気を配り、意向を把握するように努めている。 意思疎通の困難な方は、ご家族から情報得て、希望に添うよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞き取りを行い、馴染みのあるものを入所時に持参して頂き、住みやすい環境となるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の身体状態を把握し、本人にできることを見つけ、過ごして頂くよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ずつに担当者を設け、担当者を中心に職員全員で介護計画の作成を行っています。	本人や家族の要望を聞き取り、ケアマネと相談しながら介護計画を作成している。 常に利用者の状態を把握し、必要があれば計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録をもとにスタッフと情報を共有し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに合わせ、デイサービス・訪問介護・ショートステイ等の支援にも取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他の協力を得ながら、地域でより良く暮らしていけるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回往診をして頂き、連絡を密に取り合える体制としています。	本人やご家族の希望する医者に受診していただくことができる。希望に応じて同行受診も行っている。ご家族にはその日のうちに報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に情報の共有化を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	週に一度の地域のケア会議でも情報交換を努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、意思確認書を以って説明し、同意を得ています。	重度化に伴う意思確認書を作成し、契約時に説明し、事業所としての方針を理解してもらっている。医療機関との協力体制も十分に築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成していますが、職員全員に突発的事故処理能力が十分あるとは言いきれません。応急対応がスムーズに出来るよう、実践を交えた訓練を早急に計画します。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っています。職員全員が十分な対応能力を身に付けているとは言いきれません。実践を交えた訓練を早急に計画します。	消防署の協力を得ながら、定期的に避難訓練を行っている。	夜間の訓練を行うことと、また食料や飲料水、トイレ、寒さ対策の物品等の準備も必要だと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分な声掛けを行い、プライバシーの尊重に努めています。	年上の方としての敬意を持ちながらも、他人行儀ではなく、また馴れ馴れしくならないような言葉づかいを心がけている。 職員同士でも注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主体の介護とならないよう、本人の意思を伺うように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望を十分に聞きとり、ご利用者様本位となるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みのある理美容院や移動美容院を利用しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の能力を把握し、極力ご本人で食事を摂って頂いています。ご協力頂ける方には片付けを手伝って頂いています。	その日のメニューを利用者と相談しながら、またできることは手伝ってもらいながら調理している。 旬の材料を使い、食事を楽しんでいただけるよう心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理しにより食事管理を行い、偏らないよう注意しています。嗜好を伺い、水分を十分に確保して頂けるよう、努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人若しくは介護士による口腔ケアに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを理解し、体調変化時にも柔軟に対応できるよう、職員全員で意思統一を図っています。	排泄チェック表を見ながら、排泄パターンを把握し、自然な誘導を心がけている。できるだけトイレでの排泄を大切に、状態に合わせておむつやパットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足に注意しています。尚、運動をして排便し易いよう、声掛け等を意識的に行っています。困難な場合は、薬による排便を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意思のものを最低2回以上の入浴を心掛けています。体調不良時には清拭にて対応しています。	利用者の希望に合わせて入浴していただけるよう努めている。嫌がる人に無理強いをせず、言葉かけしながら誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思を尊重するようにしています。基本的に昼食後には昼寝をして頂くようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬漏れのないよう記録しています。服薬には口確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のレベルに差があり、出来ている方と出来ない方がおられます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出にはご家族にも協力して頂くように努めています。季節の変化を感じて頂けるよう、声掛けを行っています。	できるだけ利用者の希望にそって外出していただけるよう支援している。本人の状態や天気、季節に合わせた支援ができるよう心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として、どの利用者に対してもお金の個人所有は認めていません。利用者が買い物等を希望された時は、当社にて立替払し、後で家族に請求する取扱いとしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意思を尊重しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様と季節を感じるものを作成したり、飾り付けするように心がけています。教養の空間は整理・整頓に努めています。	リビングには、利用者の作品や季節の花、装飾品等が飾られ、快適に過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数で利用できる机・ソファ等を用意し、気軽に利用して頂けるよう促しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、お気に入りのものをお持ち頂き、居心地の良い居室づくりに努めています。	利用者の使い慣れた品々が持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今持っておられる能力が衰えないよう、トレーニングを定期的に行って頂くよう、声掛けを行っています。		